

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	使用条件	べと病	苗立枯病	菌核病	灰色かび病	黒斑病	黒すす病	株腐病	ピシウム腐敗病	根こぶ病	黒腐病	軟腐病	黒斑細菌病	根朽病
ドイツボルドーA水	M1		-	-											◎		◎	
Zボルドー水	M1		-	-		◎									◎	◎	◎	
マスタピース水	NC		1	-											◎	◎	◎	
タチガレン液	32		*h	3									◎					
スターナ水	31		7	3												◎	◎	
トップジンM水 <sup>㊟</sup>	1		3	2				◎				◎						◎
ベンレート水 <sup>㊟</sup>	1		7	6				◎										◎
エトフィンFL	22		1	3		◎												
アフエツトFL	7		1	3				◎	◎			◎						◎
カンタスDF	7		7	2				◎	◎			◎						
ケンジャFL	7		1	3				◎										
バレード20FL	7		*j	1	☆		®	◎										◎
モンカットファイン粉剤20DL	7		*g	2			®					◎						◎
モンカットFL40	7		7	4								◎						
カナメFL	7	劇	1	3				◎				◎						
アンスター20FL	11		1	4		◎		◎	◎			◎						
ファンタジスタ顆水	11		3	3				◎	◎	◎		◎						◎
メジャーFL	11		3	3		◎		◎				◎	◎					
オラクル顆水	21		*c	2										◎				
オラクル粉	21		*b	2	☆									◎				
ライメイFL	21		7	4		◎												
ランマンFL	21		3	4		◎							◎					
			14	1										◎				
			*f	1	☆									◎				
フロンサイドSC	29		*b	*e			®	◎						◎				
			*c	1			®	◎				◎						
フロンサイド粉	29		*b	*e			®	◎						◎				
セイビアーFL20	12		1	3				◎				◎						
スミレックス水	2		14	4				◎										
ロブラール水	2		7	4				◎				◎						
リゾレックス水	14		7	3								◎						
オンリーワンFL	3		1	3				◎										
ベジターポDF	19		14	3								◎						
ポリオキシンAL溶	19		*d	2							◎							
			14	3				◎										
ジオゼット水	19		14	3								◎						
フェスティバル水	40		1	3		◎												
レーバスFL	40		7	3		◎												
オリゼメート顆水	P2		*i	1	☆										◎		◎	
ネビジン粉	36		*b	2										◎				
			*c					◎										
ネビリュウ粉粒	36		*b	2										◎				

キャベツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	べと病	苗木枯病	菌核病	灰色かび病	黒斑病	黒すす病	株腐病	ピシウム腐敗病	根こぶ病	黒腐病	軟腐病	黒斑細菌病	根朽病
ピシロックFL	U17		1	3		◎							◎					
バリダシン液5	U18		7	5								◎			◎	◎		
キノンドーFL	M1		14	3											◎			
ヨネボン水	M1		7	5		◎									◎	◎		
ジマンダイセン水	M3		30	3		◎												
ペンコゼブFL	M3		30	3		◎												
ダコソイル粉	M5	*b	1										◎					
ダコニール1000FL	M5		14	2		◎												◎
ベルコートFL	M7		28	3				◎										
リドミルゴールドMZ顆水	4・M3		30	3		◎												
フォリオゴールドFL	4・M5		14	2		◎							◎					
カセット水	31・24		7	3											◎	◎	◎	
ソータルWDG	31・14		7	3								◎				◎		
ナレート水	31・M1		14	3											◎	◎		
ゲッター水㊦	1・10		7	2				◎										
ニマイバー水㊧	1・10		7	3				◎										
ダコレート水㊨	1・M5		14	2		◎		◎										◎
シグナムWDG	7・11		7	2		◎		◎	◎			◎						
ベジセイバーFL	7・M5		14	2		◎		◎				◎						
カスミンボルドー水	24・M1		7	4											◎	◎	◎	
カスミンバリダシン液	24・U18		7	4											◎	◎		
ドーマイシン水	25・M1		14	2											◎			
カーニバル水	40・M5		14	2		◎												
プロボース顆水	40・M5		14	2		◎												
フェスティバルC水	40・M1		1	3		◎									◎			
カンパネラ水			30	2		◎												
ベネセット水	40・M3		30	2		◎												
ネビモン粉	36・7		*c	2								◎		◎				
			*g	2				®										
シトラノールFL	M1・M5		14	2		◎									◎			

㊦:チオファネートメチル含有剤 ㊧:ベノミル含有剤 ㊨を使用した場合には同じ作での㊩は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。

\*a:発病前～発病初期 \*b:播種又は定植前 \*c:定植前 \*d:子葉展開期以降

\*e:2回以内(苗床1回、本圃1回) \*f:定植前日～当日 \*g:播種時～定植前

\*h:出芽時～育苗期 \*i:定植時 \*j:育苗期後半～定植当日

®:リゾクトニア菌による病害

☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

キャベツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	アザミウマ類	アブラハバチ類	コナガシ	シロイチモジ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	ウワバシ	ネキリムシ	オオタバコガ	ハイマダラノメイガ	キスジノミハムシ	コガネムシ類	コオロギ	カタツムリ類	その他害虫
除虫菊乳3	3A		7	5	◎		◎												
スピノエース顆水	5		3	3	◎		◎	◎	◎		マ		◎						
エスマルクDF	11A		*e	-	ネ								◎						
エコマスターBT	11A		*e	-	ネ						◎		◎						
ジャックポット顆水	11A		*e	-					◎	◎									
ゼンターリ顆水	11A		*e	-	ネ		◎	◎	◎	◎			◎						
チューレックス顆水	11A		*e	-					◎	◎									
フローバックDF	11A		*e	-	ネ						◎		◎						
ボタニガードES乳	UNF		*p	-				◎											
ダブルシューターSE	-・5		3	3	◎														
オリオン水40	1A	劇	7	4		◎		◎		◎	マ								
デナボン5%ベイト粒	1A		14	3						◎	◎							コ	ダ
マイクロデナボン水85	1A	劇	21	3				◎		◎	◎								
オルトラン水	1B		30	1		◎	◎	◎	◎	◎	マ								
オルトラン粒	1B		*m	1		◎							◎						
			*d	1		◎	◎		◎				◎						
カルホス微粒F	1B	劇	*b	1									◎						
カルホス粉	1B		*b	1									◎						
サイアノックス乳	1B		21	2		◎	◎	◎		若	マ					成			
ジェイエース溶	1B		30	1		◎	◎	◎	◎	◎	マ								
ジェイエース粒	1B		*d	1		◎	◎	◎	◎										
ダイアジノン水34	1B	劇	30	2		◎	◎	◎							◎				ボ
ダイアジノン乳40	1B	劇	30	2		◎	◎	◎							◎				
ダイアジノン粒5	1B		*b	2									◎						ケ
			*d	1									◎						タ
			30	2											◎				
ネマキック粒剤	1B		*r	1															テ
ネマトリンエース粒	1B		*r	1		◎													
マラソン乳	1B		1	5		◎	◎	カ		◎									
プリンス粒*	2B		*k	1					△					◎					
			*Q	1					▼					◎					
			*c	1										◎					
			*i	1					◇					◎					
アグロスリン水	3A	劇	7	5		◎	◎		◎	◎	マ								

キャベツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	アザミウマ類	アブラハムシ類	カブラナ類	コオロギ	アシロイモジヨトウシ	ヨトウシ	ハスモンヨトウ	ウヅバ	ネキリムシ	オオタバコガ	ハイマダラノメイガ	キスジノミハムシ	コガネムシ類	カタツムリ類・ナメクジ類	その他害虫	
																				3
アディオン乳	3A				◎	◎	◎	◎	◎				マ	◎						
ガードバイトA粒	3A												◎							
サイハロン乳	3A	劇	7	3	◎	◎	◎	◎	◎											
テルスター水	3A		21	4	◎	◎	◎	◎	◎											
トレボン乳	3A		3	3	◎	◎	◎	◎	◎											
トレボンMC	3A		3	3				◎	◎						◎					
フォース粒	3A	劇	*d	1									◎							
マブリック水20	3A	劇	14	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	マ									
アクタラ顆溶	4A		*a	1	☆	◎														
			3	3		◎														
アクタラ粒5	4A		*i	1	◆	◎	◎													
			*a	1	★	◎	◎	◎							◎					
			*Q			◎									◎					
			*d			◎									◎					
アドマイヤー1粒	4A		*d	1		◎														
アドマイヤー顆水	4A	劇	7	2		◎														
アドマイヤーFL	4A	劇	7	2		◎														
アルバリン顆溶	4A		3	2		◎														
スタークル顆溶	4A		*f	1	☆	◎	◎	◎							◎					
アルバリン粒	4A		*d	1		◎	◎	◎							◎					
スタークル粒	4A		*m	1		◎														
ダントツ粒	4A		*a	1		△	◎	◎	◎				◎		◎					
			*d			▽	◎	◎	◎						◎					
			*Q			▽	◎								◎					
			*c			▽	◎								◎					
ダントツ溶	4A		3	2		◎	◎	◎	◎											
モスピラン顆溶	4A	劇	7	5	◎	◎	◎	◎	◎							◎				
モスピラン粒	4A		*d	1		◎	◎	◎					◎		◎					
			*h			◎	◎	◎				◎			◎					
トランスフォームFL	4C		1	3	ネ	◎														
フィールドマストFL	4E		1	2			◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎					モ

キャベツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用回数	使用回数	使用回数	アザミウマ類	アブラハムシ類	カブラナ類	コナガシ	アシロウモジ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	ウレバシ	ネキリムシ	オオタバコガ	ハイマダラノメイガ	キスジノミハムシ	コガネムシ類	カタツムリ類・ナメクジ類	その他害虫
ディアナSC	5		*a	1	☆	◎														ハ
アニキ乳	6		3	3					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
アフーム乳	6		1	3					◎	◎	◎	◎	マ	◎	◎					
マイキラ	8	劇	14	3																◎
コルト顆水	9B		1	3	ネ	◎														
コテツFL	13	劇	1	2				◎	◎	◎	◎	◎	マ		◎	◎				
パダンSG溶	14	劇	14	4		◎		◎	◎							◎				ナ
リーフガード顆水	14	劇	7	3		◎	◎	◎	◎							◎				◎
アタブロン乳	15		7	4				◎	◎	◎	◎	マ		◎						
カウンター乳	15		7	3				◎	◎	◎	◎									
カスケード乳	15		7	2	◎			◎	◎	◎	◎	マ		◎	◎					
ノーモルト乳	15		7	2				◎	◎	◎	◎	マ								
マッチ乳	15		7	3				◎	◎	◎	◎					◎				
ロムダンFL	18		1	2				◎	◎		◎									
ファルコンFL	18		7	2				◎	◎		◎	マ		◎	◎					
マトリックFL	18		7	4							◎					◎				
ハチハチFL	21A	劇	14	2		◎	◎	◎	◎							◎				
トルネードエースDF	22A		7	2				◎	◎	◎	◎	◎				◎				
ファイントリムDF	22A		7	2				◎	◎	◎	◎	◎				◎				
アクセルFL	22B		1	3				◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎				
アクセルベイト粒	22B		7	3							◎		◎							◎
モベントFL	23		7	3		◎	◎	◎	◎											
フェニックス顆水	28		1	3				◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎					
ブリロッソ粒オメガ	28		*n	1	△	◎	◎	◎								◎				
			*o	1	◎	◎	◎	◎								◎				
			*m		◎												◎			
ブレバソソFL5	28		*n	1	▲			◎	◎			◎	◎		◎	◎				
				1	☆			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
ブレバソソ粒	28		*n	1	△			◎	◎							◎				
			*o					◎	◎								◎			
ベネビアOD	28		1	3		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
バリマークSC	28		*n	1	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			

キャベツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分 類コ ード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	カ	コ	シ	ヨ	ハ	ウ	ネ	オ	ハ	キ	コ	コ	そ	
						ザ	ブ	ロ	ス	ワ	キ	オ	イ	ス	コ	カ	タ	タ	タ	タ
ヨーバルFL	28		*n 1	☆	◎◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎				
ウララDF	29		1 3		◎◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎				
プロフレアSC	30		1 3			◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎					
ファインセーブFL	34	劇	3 2		◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎					
ブレオFL	UN		7 2		ネ	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎					
ナメクレーン3	-		14 2																◎	
ナメトックスハウス	-		*u 6																ナ	
キックオフ顆水	4A・28		*f 1	☆	◎◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎					
ジュリボFL	4A・28		3 3		◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎					
ミネクトデュオ粒	4A・28		*s 1	▲	ネ◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎					
			*n 1	☆	ネ◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎					
			*g 1		◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎					
			*d 1		◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎					
アフームエクセラ顆水	6・15		7 3		ネ	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	マ	◎◎	◎◎						
アクセルキングFL	21A・22B	劇	14 2		ネ◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎						
ヨーバルターボFL	23・28		7 3		◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎						

\*:商品により使用時期・使用量・適用害虫等の登録内容が異なる。  
 ★:苗地床に全面土壌混和する。  
 ☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。  
 ▲:苗地床に灌注処理する。希釈濃度が☆の登録とは異なるので注意する。  
 △:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。  
 ◇:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの床土に均一に混和する。  
 ▼:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの覆土に均一に混和する。  
 ◆:床土に混和する。  
 ▽:覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する。  
 株:株元灌注

\*a:育苗期後半 \*b:播種時又は定植時 \*c:地床育苗期 \*d:定植時  
 \*e:発生初期(但し収穫前日まで) \*f:定植前日～定植時 \*g:播種覆土後～育苗期後半  
 \*h:定植前日～定植当日 \*i:播種前  
 \*k:播種時～定植前 \*m:育苗期 \*n:育苗期後半～定植当日  
 \*o:育苗期後半～定植時 \*p:発生初期 \*Q:播種時 \*r:定植前  
 \*s:播種時～育苗期後半 \*t:生育初期 \*u:発生時

カ:カブラハバチ グ:ネグサレセンチュウ ケ:ケラ コ:コオロギ  
 タ:タネバエ ダ:ダンゴムシ テ:ネグサレセンチュウ及びテンサイシストセンチュウ  
 ナ:ナメクジ類 ネ:ネギアザミウマ ハ:ハモグリバエ類 バ:バッタ類  
 ボ:キボシマルトビムシ マ:タマナギンウワバ モ:ナモグリバエ  
 若:若齢～中齢幼虫 成:成虫

キ  
ヤ  
ベ  
ツ

# キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

要病害虫発生消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	春まき			—	—	—	—	—					
	黒腐病				—	—	—	—					
	軟腐病					—	—	—					
	菌核病			—	—	—	—	—					
	夏まき								—	—	—	—	—
	菌核病									—	—	—	—
虫 害	コナガ			—	—	—	—	—				—	—
	アオムシ				—	—	—	—				—	—
	(モンシロチョウ)				—	—	—	—				—	—
	ヨトウムシ				—	—	—	—				—	—
	アブラムシ類			—	—	—	—	—				—	—
	オオタバコガ								—	—	—	—	—

作 型 — ; 栽培期 — ; 収穫期  
 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1000倍 ペンコゼブフロアブル 500～600倍 リドミルゴールドMZ (顆水) ● 1000倍	●耐性菌を生じる恐れがあるので連用しない。
菌核病	生育期	1. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 カンタスドライフロアブル 1500倍 スミレックス水和剤 2000～3000倍 トップジンM水和剤⑤ 1000～1500倍 ベンレート水和剤④ 2000倍 ロブラール水和剤 1000倍 2. 発病株は菌核を形成する前に抜きとり、処分する。	3～5月と10～11月頃に、気温が20℃前後で曇雨天が続くと発生しやすい。 ⑤を使用した場合には同じ作での④は使用しないこと。その逆も同様 (種子への処理および塗布処理を除く)

キャベツ

## キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	定植前	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常発地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。</li> <li>2. 畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。</li> <li>3. 石灰施用により土壌酸度を矯正する。</li> <li>4. 苗畑は無病地に設けるか土壌消毒し育苗(土壌消毒の項参照)、または消毒した用土でセル育苗を行う。</li> <li>5. 定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。            オラクル粉剤                全面処理                   30kg/10 a                作条処理                   20kg/10 a            ネビジン粉剤                全面処理                   20~30kg/10 a                作条処理                   20kg/10 a            フロンサイド粉剤                全面処理                   30~40kg/10 a                作条処理                   15~20kg/10 a</li> <li>6. 定植前日~当日に次の薬剤をセル苗等に灌注する。            ランマンフロアブル△       500倍</li> </ol>	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて高温多雨の年に多発し、秋冬どりでは定植の早い作型ほど被害が大きい。 前作にスイートコーンやジャガイモなどを栽培すると、被害の軽減効果がある。 薬剤などは表層10~15cmの土壌と十分に混和する。 △セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5~7L)当り2L
	生育期および収穫後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発病株は根、特にこぶを残さないように早めに処分する。また収穫後の残渣はていねいに処分し、畑にすきこまないようにする。</li> </ul>	
黒腐病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。</li> </ul>	5月及び9~10月頃に気温が低く、多雨のとき発生しやすい。台風など強風雨により茎葉に傷がつくと多発しやすい。
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生を認めたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。            カスミンボルドー(水)       1000倍            カセット水和剤               1000倍            キノンドーフロアブル                800~1000倍            ナレート水和剤               800倍            Zボルドー(水)               500~1000倍</li> </ul>	
軟腐病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低湿地での栽培をさげ、排水を良好にする。</li> </ul>	病原細菌は風雨や害虫によって生じた傷口などから侵入する。 夏~秋にかけて高温のとき発生しやすい。
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風や大雨の後、及び結球初期に、次の薬剤のいずれかを散布する。            カスミンボルドー(水)       1000倍            カセット水和剤               1000倍            ナレート水和剤               800~1000倍            Zボルドー(水)               500~1000倍</li> </ul>	

キャベツ

## キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	1. 過密な播種を避け、苗床の過湿に注意する。 2. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	病原菌はリゾクトニア菌またはピシウム菌による。
萎黄病	播種前	・発生地の秋冬どり栽培では抵抗性品種(YR品種)を栽培する。	キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、コマツナ、カブ、ハボタンなどに発生する。秋どりのキャベツで特に被害が大きい。
	定植前	・本畑は土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	
株腐病	定植前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌はリゾクトニア菌であるが、本病は孢子により伝搬することがある。 初夏どりの作型で、結球期に降雨が続くと多発しやすい。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを予防的に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 セイビアーフロアブル20 1000倍 モンカットフロアブル40 2000倍 リゾレックス水和剤 500~1000倍	
アブラムシ類	定植時	・次の薬剤のいずれかを施用する。 オルトラン粒剤 植穴 1~2 g/株 モスピラン粒剤 植穴 1 g/株 株元 1~2 g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000~3000倍 オルトラン水和剤 1000~2000倍 ダントツ水溶剤 2000~4000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000~4000倍	
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 ディアナSC 2500~5000倍 ハチハチフロアブル 1000倍	主要なアザミウマはネギアザミウマである。春作では5月下旬ごろから、夏作では定植初期から増加する。
アオムシ	定植時	・次の薬剤を植穴に処理する。 オルトラン粒剤 植穴 1~2 g/株	老熟幼虫は薬剤がききにくいので、小さいうちに駆除する。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 アフーム乳剤 1000~2000倍 エスマルクDF* 1000~2000倍 オルトラン水和剤 1000~2000倍	

\*野菜類での登録

# キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナガ	定植時 (育苗期)	1. 次の薬剤を植穴に処理する。 オルトラン粒剤 植穴 1～2g/株 2. 次の薬剤のいずれかを処理する。 ジュリボフロアブル セル苗等に灌注 #1、#3 200倍 プレバソンフロアブル5 セル苗等に灌注 #1、#3 100倍 苗地床に灌注 #2、#3 500倍 プレバソン粒剤 株元散布 #4 1g/株 3. コナガコン-プラス◇のいずれかの剤を、作物の上部に設置する。 ツインチューブ製剤 100～120本/10a ロープ状製剤 20～40m/10a	発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 幼苗期には芯葉を好んで食害し、被害が大きい。 #1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L。土耕の育苗床では使用できない。 #2苗地床1㎡当り2L。 #3育苗期後半～定植当日 #4育苗期後半～定植時◇成虫の交尾阻害が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。 抵抗性を獲得しやすいので薬剤を連用しない。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 オルトラン水和剤 1000～2000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 ディアナSC 2500～5000倍 トルネードエースDF 1000～2000倍 パダンSG水溶剤 1500倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍	*野菜類での登録
ヨトウムシ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 ノーモルト乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍	5～6月と9～10月の2回発生する。 若齢期は葉裏に集団で生息し、表皮を残し葉肉をかすり状に食害する。 老熟幼虫は薬剤が効きにくく、しかも外葉から結球部全体に分散しているため防除効果も低くなる。 *野菜類での登録

キャベツ

## キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハスモンヨトウ		・広範な地域で設置可能であればコンフューザーV*1を100～200本/10a 配置する。	*1野菜類での登録。成虫の交尾阻害が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。 春から初冬まで数回の発生をするが、多くなるのは8月下旬からである。 *2野菜類での登録
	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第捕殺する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 オルトラン水和剤 1000～1500倍 ジェイエース水溶剤 1000～1500倍 デルフィン顆粒水和剤*2 1000倍 ノーモルト乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍 マッチ乳剤 3000倍	
タマナギンウバ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 ノーモルト乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤# 2000～4000倍 プレオフロアブル# 1000倍	アオムシと混発して同じような被害をもたらす。  #ウバ類での登録
ネキリムシ類	定植時	・次の薬剤のいずれかを施用する。 ダイアジノン粒剤5 土壌表面散布 6kg/10a フォース粒剤 全面土壌混和 4kg/10a	
	生育期	・被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。	
オオタバコガ	生育期	1. 広範な地域で設置可能であればコナガコン-プラス◇を設置する。 2. 若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF* 1000倍 ファルコンフロアブル 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍	◇コナガコン-プラスの設置法はコナガの項参照。 結球内部に食入するので外観から加害の有無が判断しづらい。特に9月頃の発生盛期に圃場での発生状況に注意する。 *野菜類での登録

## キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハイマダ ラノメイ ガ (ダイコン シンクイ ムシ)	育苗期	<p>1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。 土耕育苗は、防虫ネットによるトンネル栽培を行う。</p> <p>2. 育苗期後半に次の薬剤のいずれかを株元処理する。            ダントツ粒剤 0.5g/株            プレバソン粒剤 1g/株</p>	<p>幼苗期に加害されると芯止まりとなる。夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。</p> <p>*野菜類での登録</p>
	幼苗期～ 生育初期	<p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アクセルフロアブル 1000～2000倍            アファームエクセラ顆粒水和剤 1000～1500倍            エスマルクDF 1000倍            チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍            トルネードエースDF 1000～2000倍            ハチハチフロアブル 1000倍            フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍            プレオフロアブル 1000倍            プレバソンフロアブル5 2000倍</p>	
コオロギ	生育期	<p>・次の薬剤を散布する。            デナボン5%ベイト(粒) 株元散布 3～4kg/10a</p>	